

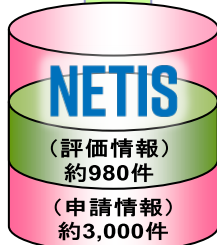
民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用・評価し、技術開発を促進していくためのシステム(平成13年度より運用)。

## 技術の開発・実用化

**登録**

公共工事等に関する、実用化された技術を申請、登録  
各地方整備局 技術事務所等にて受付

新技術データベース  
**NETIS**  
新技術情報提供システム  
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM  
Webで情報提供  
<https://www.netis.mlit.go.jp>



技術のスパイラルアップ

現場活用を迅速化する取組の強化(H28から)

### テーマ設定型

直轄工事等における現場ニーズに沿ったテーマを設定

### 技術公募

試行調査  
適合性の検証

### 評価

適合技術の選別



## 有用な技術の積極的な活用

更なる技術の開発・改良  
技術開発成果(有用な技術)の普及

### 活用

直轄工事等において、施工条件等に適した新技術を活用

- ・年間約**5,600件(43%)**の直轄工事で活用
- ・活用延べ新技術数は、年間約**19,700技術**

### 事後評価

技術の成立性や活用効果等を**5件以上**の活用結果に基づき評価

## ◆NETISへの掲載期間 [実施要領「3.2.5 NETIS掲載期間等」]

### ◇NETIS(申請情報)〔-A〕技術

申請情報の掲載期間は当初にNETISに登録した日の翌年度の4月1日から起算して**5年**を経過した日まで

活用効果調査: 5件  
⇒活用効果評価(事後評価)を実施

5年

掲載終了

### ◇NETIS(評価情報)〔-VR〕技術

評価情報〔-VR〕の掲載期間はNETIS(評価情報)に掲載された日の翌年度の4月1日から起算して**5年**を経過した日まで

10年

掲載終了

5年

掲載終了

◇NETIS(評価情報)〔-VE〕技術

評価情報〔-VE〕の掲載期間は当初にNETIS(申請情報)に登録した日の翌年度の4月1日から起算して**10年**を経過した日まで

掲載終了

## ◆新技術を活用する5つの方式

### 発注者指定型

◆発注者がこの新技術を使うようにと指定する場合

⇒現場ニーズ等により必要となる新技術を対象に、**発注者の指定**により活用を行うタイプ  
⇒(選択肢提示型: 今回新設)  
テーマに基づく複数の新技術を選択肢として提示し、契約後に施工者が選択肢から技術を選定するタイプ

### 施工者選定型

◆施工者から契約前もしくは契約後に提案があった場合

⇒**施工者からの提案**に基づき、新技術の活用を行うタイプ

### 試行申請型

◆開発者の申請により申請情報の妥当性を現場で確認する場合

⇒事後評価未実施技術を対象に、**申請者(技術開発者)からの申請**により、試行現場を照会し活用を行うタイプ

### フィールド提供型

◆ニーズにあった新技術を募集し、使ってみる場合

⇒**ニーズにあった新技術を開発者から募集**し、審査・選考して活用を行うタイプ

### テーマ設定(技術公募)

◆技術募集テーマを明確に設定のうえ、新技術を募集し、使ってみる場合  
⇒**技術開発者からテーマにあった新技術を募集**し、選考して活用を行うタイプ  
活用後は、評価結果に基づき「技術比較資料」を公表する